



No.4

サポートルームだより

令和5年6月30日
 拠点校 大田区立梅田小学校
 校長 金高 俊哉
 巡回指導教員

朝顔が色鮮やかな花を咲かせる季節となりました。プール開きも行われ、夏の訪れを感じます。保護者の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、早いもので1学期も終わろうとしています。サポートルームでの様々な活動を通して、着実に成長していく子どもたちの様子を見ることができ、嬉しく感じるのと同時に、2学期以降の活躍・成長に大きな期待も感じています。保護者の皆様には、日々連絡帳にコメントを書き添えてくださり、個人面談を通してお子さんの家庭での様子を共有させていただき、綿密に連携できることに感謝申し上げます。さらにサポートルームでの活動内容にもご理解をいただけるように努力して参ります。



活動紹介



感覚統合 (かんかくとうごう)

単に運動や姿勢保持に直結するだけでなく、読み・書きや会話など、言葉を使うことの困難さの背景にも、「感覚」の使い方の崩れが関わっていることがあります。「触覚」「平衡感覚」「固有感覚」という3つの感覚は、子どもの生活にとって重要な役割を担っています。

感覚統合とは、「触覚」、身体のバランスをとるときに使う「平衡感覚」、身体の動きをコントロールするときに使う「固有感覚」の3つの感覚をバランスよく使うこと（統合）ができるようにしていくことです。

「触覚」が鈍感だと

- つめや鉛筆をかむ。
- 手にふれたものをすぐ口にする。
- 他人との程よい距離感をつかめず、近づきすぎる。
- 何かにぶつかったり、けがをしたりしても痛がらず、平気である。
- うでに歯形をつけるほど強くかむなど、自傷的な行動をする。
- 食べ物をよくかまずに飲み込む。

「平衡感覚」が鈍感だと

- 姿勢をまっすぐ保てない。
- 板書が苦手、ノートがとれない。
- 頭や体をいつも動かしている。
- 目の前で手をヒラヒラさせてずっと見入っている。
- 視線を定められず、人の目を見て話せない。
- まわる遊具やブランコなどが大好きで、はなれようとしにくい。

「固有感覚」が鈍感だと

- 細かい動作が苦手。
- 力加減が調節できず動作が乱暴。
- 何かにぶつかったり転んだりしやすい。
- 動きを模倣するダンスなどが苦手。
- 姿勢が悪く、ダラダラして見える。
- 文字が上手く書けない。
- コツコツと机をたたいて音を出すなど自己刺激的な行動が見られる。

サポートルームでは、それぞれの感覚に有効な手立てとして、下記のような感覚統合の運動を取り入れています。遊びの中で楽しんで行いながら習慣づけ、長期・日常的に取り組み習得していけるようにしています。

手触りなどを感じられる遊び

鉛筆あやつり



指や掌で棒を上下に動かします。

大きな揺れを感じられる遊び

バランスボール トランポリン



視線を安定させながら乗ります。
 様々な跳び方・乗り方を指導します。

筋肉や関節の感覚を使う遊び

体幹トレーニング

